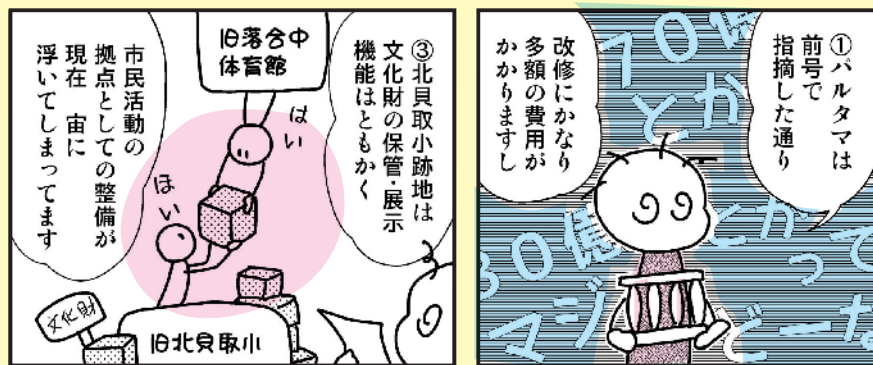


その2：再編に挑む行政側の姿勢は？



パルテノン どれだけ大事？

パルテノン改修については、前頁で説明した説明会とパブコメのほか、市民委員も交えた策定委員会で意見交換が可能です。

市側は「質の高い文化芸術に接する」「多摩センターの活性化を推進する」重要な施設と位置付けていますが、経済効果や利用率を見る限り、市民に愛され親しまれている存在とはいえないのが現状です。

今後もさまざまな方法で広く市民の声を聞き、「パルテノンのある多摩市」が市民にとってどんな価値をもつのか、はっきりしたビジョンを作らなければなりません。



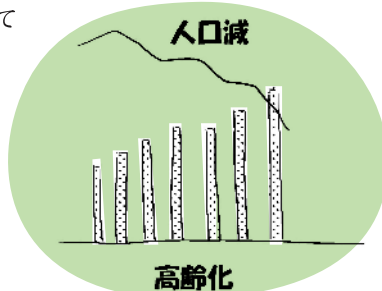
学校跡地はどうなる？

答弁によると、旧北貝取小を「市民の活動拠点」とする、という方針は変わっていないそうです。

しかし今年度の当初予算には、文化財関連の予算しか盛り込まれていません。昨年の一般質問の際に市側は「平成30年には(拠点整備し)開放」と答えています。予定通りに市民が利用できるようになるのか、先ゆきは今ひとつ不透明。

私は「東永山複合施設の利用者に、ちゃんと現状を説明してほしい」旨を所管に申し入れました。この点も、あいまいにせずしっかり注視していきます。

もちろん、削減や廃止にはそれぞれ理由があります。限られた財源の中で健全な運営を続けるために、行政も苦心しているのです。



〔現代日本の厳しい課題〕

